

## わたしのお兄ちゃん

### 小 四

わたしは、四人家族です。お父さんとお母さんと、お兄ちゃんとわたしの四人でくらしています。

お父さんは、A県の会社で、車のアンテナのせつ計の仕事を、お母さんは作業りようほうしとほ育しをやりながら、家事もしています。わたしは宿題をがんばり、お兄ちゃんも家事のお手伝いをしています。

わたしのお兄ちゃんは、しょう害があります。生まれてから何日も入院し、手じゅつを三回もしました。ようやくきたい院してもお兄ちゃんはさんそをつ

けて生活していました。お兄ちゃんはさんそをつけていても、遊園地や動物園など、いろいろなところで散歩をたくさんしていました。そんなとき、わたしが生まれてお兄ちゃんは病気が治り、さんそが外れました。お兄ちゃんはお兄ちゃんに、「いないいないばあ」をたくさんしてくれました。そして、いっしょに遊んでくれました。それでもたまにやりすぎて、わたしを泣かせたこともありました。

そんなことがあったけれど、わたしもお兄ちゃんも成長して、わたしは小学四年生に、お兄ちゃんは中学三年生になりました。お兄ちゃんの通う中学校は、地いきの学校ではなく、「特別しえん学校」です。

そこは、しよ害のある子どもが通う学校で、小学校から高校まであります。特別しえん学校は、自分のことを自分でできるように練習したり、しよ来のお仕事に向けてじゅんびをしりしているところだと、お母さんに聞きました。「わたしはたくさん勉強しているけれど、特別しえん学校でも勉強しているのかな。」と、お母さんに特別しえん学校のことをくわしく聞きました。すると、国語や数学、体育や音楽を楽しくやっていると教えてくれました。お兄ちゃんにはその他に、お仕事に向けて作業活動があります。木工、手芸、紙工芸、農園芸はに分かれて、一年間作業をします。お兄ちゃんは、去年は手芸はんでヘアゴ

ムやラベンダーのポプリを作っていました。このラベンダーは、学校の庭でとれた花でとてもいいにおいがしました。お兄ちゃんは、トーマスが好きなので、ししゅうをしてミシンとアイロンも使ってきんちゃくぶくろを作って、持って帰ってきてくれました。そのぶくろを見たわたしは、かわいくできて「ほしいな。」と思いました。すると、お兄ちゃんがやさしくわたしにくれました。そのぶくろは、今でも大事に使っています。

お兄ちゃんは、今年木工はんになったそうです。毎年十一月に、はんぷ会があつて、作った作品を売るので、何を作ってくれるのか楽しみです。わたしは、お兄ちゃんが大人になったら、

お兄ちゃんにしかできない仕事についてほしいです。

お兄ちゃんは得意なことがたくさんあります。それは、歌とダンスです。歌は、いろいろな歌を歌っていて、カラオケも大好きです。ダンスも好きです。よく家でたくさんおどっています。一番得意なのは、「あいさつ」です。お兄ちゃんは、小さいころからあいさつが得意で、いろいろな人にあいさつをしています。「はじめまして」の人にも、あいさつをします。あいさつをするとき、すぐに仲よくなれます。「あいさつが上手だ。」と校長先生にもたくさんほめられているそうです。そんなお兄ちゃんを見て、はずかしがり屋のわたしはあいさつができないから、見

習いたいなと思いました。

金子みすゞさんの詩に『私と小鳥と鈴と』という詩があります。その詩の中に「私が両手を広げても お空はちつとも飛べないが 飛べる小鳥は私のように 地面を速くは走れない」という連があります。それを聞いて、お兄ちゃんとおわたしのようだと思います。わたしはエレクトーンが得意です。お兄ちゃんはおいさつが得意です。エレクトーンはひけません。わたしは、あいさつが苦手でも、エレクトーンをひくことができます。どちらかがすごいのではなく、お兄ちゃんとおわたしはそれぞれ得意なことがあって、その得意なことを大切にしていけばよいと思います。

す。「みんなちがってみんないい。」と  
わたしも思いました。

しょう害のある人でも、お兄ちゃん  
みたいに毎日ががんばっているから、わ  
たしはしょう害のある人とも、ない人  
とも仲よく楽しく生活していきたくい  
です。しょう害のあるなしに関係なく、  
世界中みんなが仲よく楽しく生活でき  
る未来になってほしいと思っています。  
わたしは最近、お兄ちゃんとケンカ  
することが多いけれど、お兄ちゃんを  
みんなに自まんしたいと思っています。  
しょう害のあるお兄ちゃんでも、あい  
さが上手で、ダンスや歌が好きです。  
わたしはそんなお兄ちゃんが大好きで  
す。